

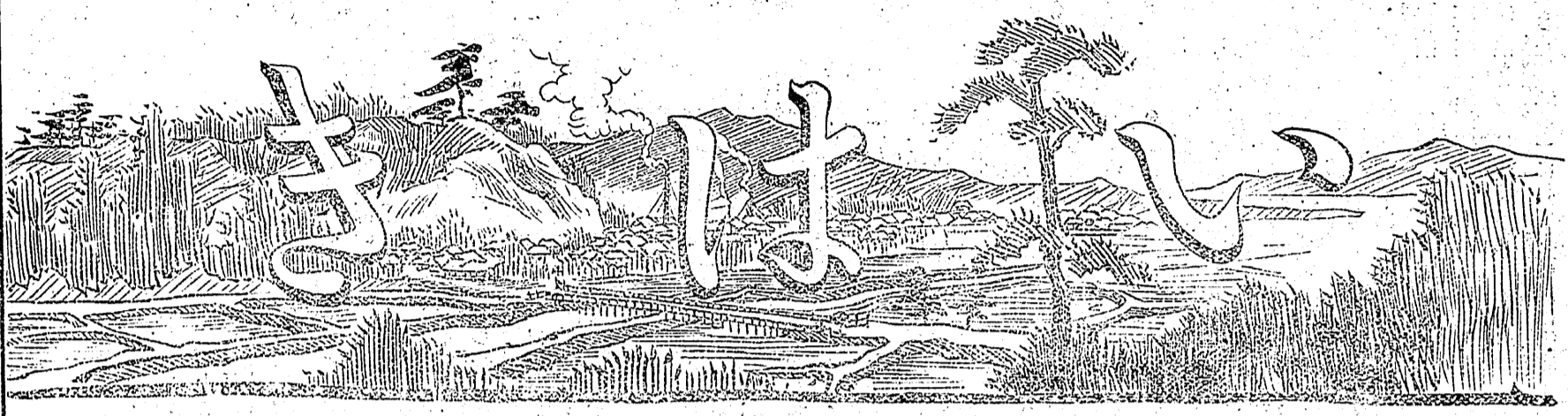
新 珍 荷 柄 着



平号四丁目南 力可屋呉服店

新聞雑誌書籍的賣業 平陽社

東京市京橋區南八丁堀一丁目二十六番地
振替貯金口座七四四
定價一部 金五錢
外一郵税 五厘
五號活字十九字詰
發行所 高木朝重
印刷人 高城寛雄



呼此大汚辱!!!

凡そ公娼設置の不可なるは、之を人道の大
本より論ずるも、國家の體面より論ずるも、
將た社會風俗の上より論ずるも、公衆衛生の
上より論ずるも、業に既に充分解決されたる
問題にして、今に於て故らに筆舌を勞する
の要なしと雖も、不幸にして我々平町民の
意志を代表する町會は、五月十六日を以て
遊廓設置に關する醜劣町長伊藤眞正の諮問
案を可決し、當に天下の胡虜を買へるのみ
ならず、町民の輿上に一大汚辱を被らしめ
たり、吾人は愚民の愚民と見せしめ、此明
白の問題を論ずるとを悲むに、平町が
甚だに世の進運と背馳せるかを痛歎せしむ
べからず、吾人は今先づ本問題の骨子たる
彼の醜劣町長の諮問案なるものを讀むに、
曰く、

常町に於ける遊廓たる維新後新屋町に設
置せられたりと雖も彼の娼妓解放令の發
布と共に之を廢止し爾來各地に在りては
或は之を繼續し或は之を新設したるも、獨
り本町は其機會を逸し延びて今日に至り
しなり、本町の如きは本郡の樞府縣下
の一大雄郷を以て目せられし、戸數二千
四百五十人、人口一萬五千を有し、特に近時工
業熱の勃興と共に諸事業頻りに起り隨て
商賈の來往勞働者の出入漸く頻繁なり、此
趨勢により觀察すれば、近き將來に於て市
たる資格を獲るや、蓋し空想ならざるべし
の發展を期せざるべし、然れども、一利
を一害の伴ふは古今の常態にして、爰に
大に憂慮すべきは、其の常態ありては近時
人口の増加と共に彼の最も嫌惡すべき酌
婦及酌婦の數日一日より多きを加
へ、酒を平として殆ど停止する所を知らざ
るの勢なるが如し、故に風儀に衛生に其害
實に言ふに忍びざるものあり、若夫現今に
して之が救済の策を講ぜず、自然の成行に

放擲せば遂に致さざるの悲況に陥る
や明かなり、果して然らば大にしては國家
の元氣生産力を減耗し、小にしては一家の
不和衰退を來すや、必然なれば片時たりと
も決して忽に付すべからざる極めて重
要事と云はざるを得ず、今茲に衛生上禍害
の事實を擧ぐれば、客年一月より十一月に
至る十一月間醫者の治療を受けたる北
柳病及び淋病患者は實に一千二百六十
一人の多きあり、之を總人口に比較するに
は十一人八分の一の割合に該當す
し、其五割以上の數を得る蓋し離からざる
べし、然らば此最も恐るべき毒は如何に
して免除するを得べきか、之れ他なし、遊廓
設置の一策あるのみ、斷言せざるを得ず
彼の娼妓なるものは毎月一回檢査の規定
彼を以て之に接する比較的病毒を規
定せるや、推測上當然の結果なりとす、去
れば遊廓設置は毒害免除上唯一の策にし
て、衛生を保持すべし、風儀を修正
し、三には町の繁榮を來すや、智者を待つて
知るべし、故に我町現時の常態に
照し遊廓設置は刻不容緩の要事たるを認め
愛に之を諮問する所以なり、
云々、此古往今來珍不可思議なる文字を
讀みて、誰が能く抱腹絶倒せざる者あらん
や、而も其末段に於ける三箇の理由に至り
ては、到底常識を以て判斷し能ふ處にあら
ず、左れど、左れど、此愚劣なる文字、
不道徳にも不親切にも何等の調査考査をも
用ひずして、之に附帶せる「平町字川崎
十一番より十七番まで田反別七反歩此買収
金九百四十五圓、同町字佃九番より十番ま
で田反別二反歩此買収金三百三十圓、合反
別九反歩此買収金一千二百七十五圓、右地所
を買収し平町所有財産として之を貸渡敷
業者に貸し以て町歳入の増加を計らんと
す」との議案を即決するに至れり、
然り而して之が買収費として、小學校建
築準備立金を借入るの策を對し、起債
の理由として再び左の珍文字を懸列したり

二者の人格 (上)

(北郷酒井兩醫士の論戰)

我々平町會が醜劣議員の多數に制せら
れて公娼設置問題を可決し、端なく世の物
議を惹起するや、醫士北郷守江江潮に
對する自家の立場より之を看過するに忍
びずとなし、去月廿九日の福島民報紙上
に堂々筆陣を張りて其不可なる所以を論
じ、公娼派の頭上にて一大鐵槌を加へて再
び起つ能はざらしめたりと思ひ、超
えて六月十一日に及び、本報の檢閲酒井
某、健氣らしく其向に廻りて一矢を報

本町に於て客年來企劃に係る道路の開修
公園の設置女學校縣立等皆之れ生産的
の事業にして、獨り水道布設の稍生産に類
するあるのみ、尙町發展上近き將來に於
て施設を要する寺院の移轉新街の設置
溝渠の改良等又生産的移轉に屬せり、如
何に時運の止むべからざる事なりと雖も
町民の負擔力も亦大に顯る所勿るべし、
方補充の策を講ずるの極て緊要事たるを
認む依て此土地を買収し、町を以て
該地に於て遊廓を設置し、希望者に貸貸せ
ば多大なる收得あるや明らかなるを以て
町財政上無上の好財源なりと認む之れ本
案を提出する所以なり、
是れ白日公然明會の討論に上り、而も大
多數を以て可決されたる理由書なりと聞かば
天下何人か其愚に驚かざるべし、吾人は遊
廓設置をもて生産事業と心得る彼馬鹿者
共に向ひ、可憐口に風を引かすの迂を擧げ
ざるべしと雖も、我々平町民が斯くの如き大
汚辱に甘んじ、共に謝すべからざる醜業
者に依りて其衛生を保持し其風儀を矯正
其繁榮を求めんとするに至りては、人道の
爲めに斷ずる能はず、ア、誰か此滔天の
醜業を斷倒し得んや、

金儲けを出し、と笑ふ
金儲けを出し、と笑ふ

過日我々平町會は遊廓の設置を議決し町債
として小學校基本金を借り入れ土地を買収
し之を貸渡敷業者に貸貸し其收入を以て
町の財政に資するの議案は、一二の議員を除
くの外大多數を以て通過せり、而して其遊
廓を設置せんとする趣意書を一讀するに目
的とするところ二あり、曰く花柳病預防の爲
曰く町の繁榮を來さん爲て小學校の基本金
を借りて土地を買収し之を貸渡敷業者に
貸貸して町の財政に資するの當否に就ては
余之を論せず何となれば是其愚の士を俟す
して明にして事、滑稽に近ければなり、然れ
ども花柳病の預防云々、町勢發達の二は如
何にも尤もらしく醜業を營むて溜手操票の
利を得んとする如能が世人を欺くに恰當の
口實なるを以て聊か論じて世人の良心に訴
へんと欲するなり、
彼等曰く花柳病は年々非常の速力を以て蔓
延す之が傳播の源泉は密買券婦に在り、公娼
は檢査の制あるを以て之を設けずれば花柳
病を預防するを得べし、公娼設置せらるれば
遊廓は皆公娼の許に至るべく、從て密買券
は其跡を絶たんと、又曰く遊廓設置せらるれば
從て町内繁榮し、町民皆其潤澤を蒙るべしと
抑も今日行はるる公娼の檢査なるものは
果して花柳病を預防するに足るか、今日行は

平町四丁目 紀念堂

平町四丁目 紀念堂

廣告取扱御名入孟陶器製標札入調製

該患の見舞ふ處となり其義務を果す能はざるに至るは清敷の極ならずや或る徴兵検査官は本那兵丁の成績劣悪なるを愛ひ大に悲観的の言を漏せりと云ふ如上の統計は何人も争ふ可らざる事實にして其眼者の注意を拂ふ可き問題たるや言を俟たず。

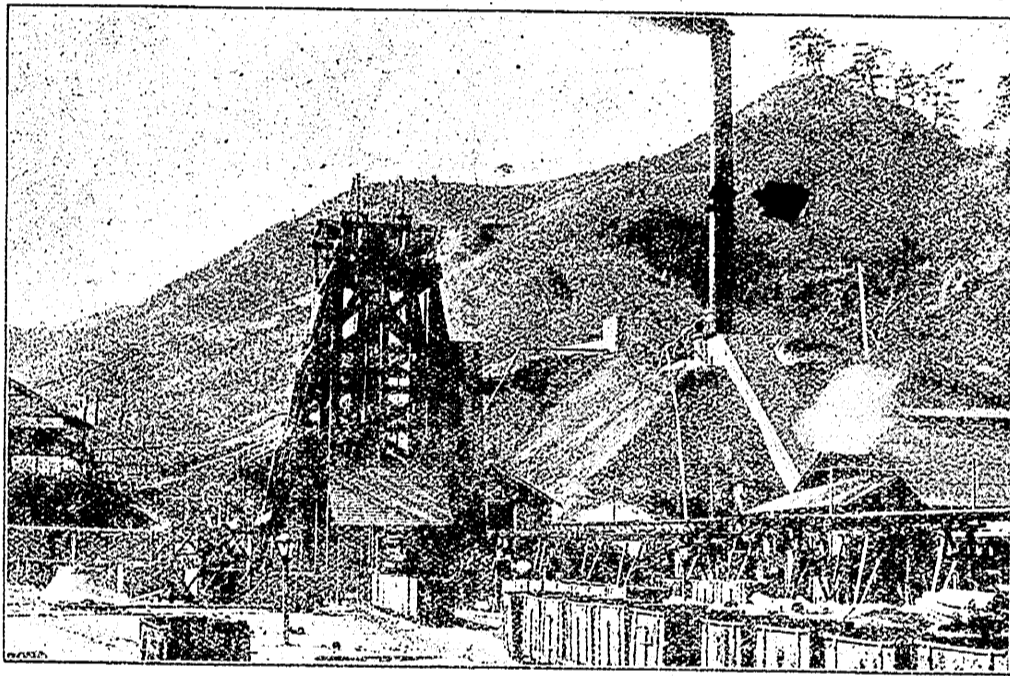
花柳病の本源とも云ふ可き魔窟は市街の各所に散在して他の優良無邪なる婦女の各目眩に任かすが如き社會の風儀に及ぼす悪感化は果して幾何ぞ當に風紀を紊亂するのみならず衛生上に波及する危害は遂に底止する處なきに至るも又知る可らず之れが巨濟の法は速に公娼を設けし檢査を勵行し以て風紀を嚴正に監視するの外良策なかる可し。抑々公娼の設置は國家の體面上素より歓迎す可きものにあらざれども現今の情勢に在つては宗教上若しくは道義上の觀念を外に單に梅毒其他の花柳病の防遏に鑑み醫學上及行政衛生上より必須の要件たるを信すればなり。果せるかな平町々々公娼場殆んど一致を以て茲に公娼設置の決議を爲せり之れ機運の然らしむる處又當然の措置と謂ふ可し。

然るに何ぞ圖らん常町の醫師北郷保守君は去二十九日の其紙を假り絶對に反對の意見を述べられたり余は同業者として之れを惜む然れども君の裏面には僞善者の躍起となり反抗するあり君も又其渦中に投せられたるものなるや疑ふべくもあらず予は公娼を重んずるの上に於て温良にして而も親愛する君に反對を試むるは情に於て忍びずと雖も君が己に挑戰を公開したる時は予たるもの豈雲烟過眼空しく黙止すべきものならんや茲に聊か君の誤謬を正して世の識者に訴ふる所あらんぞ。

ひ公娼の花柳病に感染するや其治療費の公費たるを知らず樓主娼婦の自辨たるかの如く説き完全なる治療は不可能なりと斷じ公娼に關する現行制度を無視せり又君は梅毒瘰癧は不治症なりと云ふも早期治療に依り治し得るとは現代梅毒の専門家たる土肥博士等の證言する處なるに非らずや君も梅毒の特效薬あるも洩らせり、何ぞ自家撞着の

入山探炭株式會社第三坑の圖

本坑探炭最盛は各坑炭坑の中在に位其ても質炭第
一に在り稱らせ其内容に在はるは炭坑位の上記に介紹せん



に至らんと之れ寧ろ杞憂の淺見たり聞く藝妓なるもの多くは不見轉者にして敢て外交的手腕を要せずと云ふにあらざるや矧んや酌婦に於てをや。

君の言の如く遊治郎僑紳士は花柳病傳播の媒介者たるは多少事實に近けれども其根原は主として淫婦にあらざるはなし之れは間接に淫婦より接種せしものなりと云ふを憚らざる。

甚だしきや君の説の如きは世の謠言をして徒らに危懼不安の念を起し絶望に終らしめ延いて醫師を信賴するもの無きに至らん君曰く藝妓酌婦に接するに外交的の合意の條約を締結する一開門ありと雖も公娼は全然開放主義なれば初心の青年遊客容易に近づくを得て花柳病の蔓延も益々猖獗を加ふる

毒者あらんか直ちに驅梅院に收容し治療を加へ治癒に至らざれば決して退院を許さずと云ふ故に彼等の多くは健康を保持すると密澤者の企て及ぶ處に非らず偶々花柳病に感染するや悉く遊客よりするも遊客は密澤者より感染し來るものなれば其傳染の徑路を追ふ時は公娼の梅毒其他の花柳病感染は間接に密澤者より接種せしものなりと云ふを憚らざる。

君は吉原洲崎の娼妓花柳病数を示し三十四年度には二千九百九十七人三十五年度には三千八百五十八人ありとて其多數に嘆息せしもの、如し世人も亦驚かん而れども之れ總數約三千余の娼妓が同年度内に檢査せし員數を計上したる延人員に過ぎず故に無毒健康は約十萬人ある割合なり予は其少數に驚かざるを得ず如何にば同遊歴數年間の統計表を見るに花柳病は平均百人に對する二人三分乃至四人八分の範圍にあり之れに反し密澤者は己に示すが如く百人中八十九人の最多を占め居るを思はば誰か慨然と曰く平町に公娼設置せり己に存在する花柳病蔓延の火焰に一掃を添ふるのみ火種は之に由て益々盛ならんと何ぞ偏見誤想の甚だしきや而れども余は誠言す公娼を設けずと雖も全然密澤者を驅除し花柳病を撲滅し得ざるとは恰も刑法ありて犯罪者罰さざるか如く宗教家ありとも不道德家多きか如く到底近き將來否遠き將來と雖も黃河の清きを望むと一般ならん。

平町は近來事業の經營頗る熾盛を極め地方の會社及鐵山に従事する勞働者其他を合して約一萬六千六百九十人ありて其需用は凡て平町に仰けり花柳病の蔓延は日に月に繁盛に趨き殊に北郷界の盛況の如き他に多く其比を見ず從つて風紀の類廢花柳病の猖獗は自然の結果なり之れ平町に公娼設置の必要ある所以なり。

先年白耳義團(ブラッセル)府に開會せし萬國花柳病會議に於ても各國の政府委員は異口同音は花柳病を撲滅する刻下の方法は賣淫女の取締を嚴正にし彼等に向て檢査を履行す可しと云ふに一致し佛國巴里の如きは約六萬人の密澤者ありて其威嚇制し難きを憂ひ同國多數學者は我日本の公娼制度を採用せんと主張し獨乙は一旦公娼を廢止せしも却て淫風盛んとなり花柳病の猖獗を極めんとするを見て僧侶警察官は頻りに公娼設置を叫びたりと云ふ果して然らば公娼を設けし密澤を防禦し檢査を履行して花柳病を撲滅するは各國を通じて己に定論あり然るに君は皮相の觀念を以て徒らに則の輿論に反抗を試むるが如きは抑も醫師たる本領を逸せしにあらざるなきか又町會議員は公娼設置を決議せりとて彼等が奸徒なりと惡聲を放つに至つては基督教徒たる君の人格を卑下し亦其教義に悖戾するものなりと云はざるを得ず。

終りに臨んで一言せん遊歴地の土地買収に小學校基本金を借り之れを營業者に貸貸して町の財政に資するは滑稽なりと評するを密澤者ならん如何にば該金たる基本金にあらざるして校舎増築準備金なればなり或は言はん基本金と云ひ準備金と云ふも均しく教育に資する費金なれば何の差異かあらん之れを借りたるは基本金を借りたるに等しと云はば又何をか言はんや借開す娼妓稅酌婦稅骨牌稅の如きは不淨なる惡稅として之れを真正なる教育資金に充當する能はずと云ふ理義ありや否や。

要するに我地方は獨り花柳病の猖獗を極むるのみならず眼疾(トラホーム)の如きは以上にして小學生徒の該症に罹るもの實に二千余人中六百余人の最大多數を示し腸胃扶助患者も其數に於て東北に冠たり(一九一二年三月三日)豈に寒心に堪ゆ可けんや斯の如

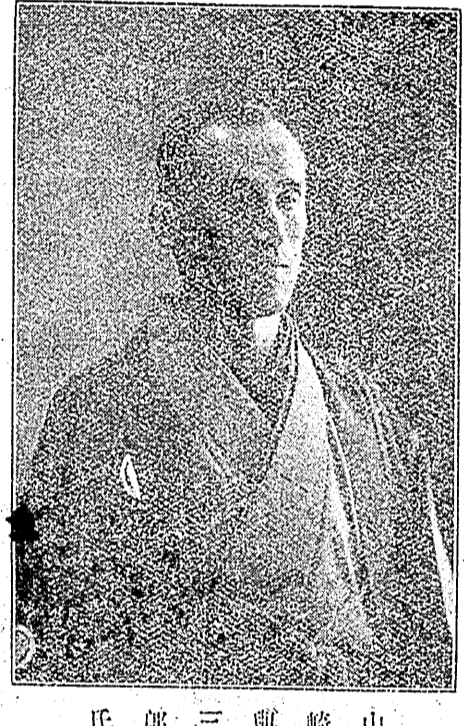
さ此地に住し衛生の指導者たり生命の保護者たる吾人刀非界の面目にあらざるなり
今や我輩は事業の勃興と共に急劇的發展を見んとする時に當り衛生事業の施設を要す可きもの多々益多からん吾人は協心努力大に其業を賛して國家に貢献するの義務を盡して可ならんや

(編者曰) 吐したりな、ほざいたりな、一わたり讀過すれば其の駭論道義に似たり、渠が其立脚地を失墜せしめんが爲めに虚偽の統計まで捏出し、功みに自己を保護せんとしたる陋劣手段は、更に北郷氏の反駁に據りて其馬脚を露はすに至れり、其北郷氏の快文字は次第に紹介すべし。

山崎與三郎氏

平名物の隨一にして、第一流の素封家を代表するものは、問はずと知るべき山崎與三郎氏である、吾人は氏が不銀行の頭取として、糖油醸造家として、糖質商として成功せる外に、一種畏敬すべき人格を備へて甚だ多くの光明面を保たる、とを此誌上に於て江湖に紹介するを榮す。

▲氏の有する富は、氏の祖父與三郎翁が窮乏より身を起し、而も鹽の擔賣まで爲して具に幸い世の中を味ひつゝ、精進經營を積んで得た賜で、氏の祖父の代に至り更に之れを大成したのであるが、北郷が内助の功多きに居るは勿論であるが、▲氏は丁度其三代目に當るので、尋常の者ならば川柳子の所謂賣糖く唐様で毒く穴を行くべきであるが、氏は幸ひにして川柳の人物ならざりしのみならず、益々家道を起して今日の地歩を占め得たのである。
▲金持と灰吹と溜るほど汚くなるのが、殆ど千古の通則であるが、氏は獨り世の金持素質に違つて、公共の爲に費す金は決して辭たしとがない、就中其育英事業に熱心なる、郷黨の子弟より數名の秀才を選抜し自ら教育を給して高等學校に入學せしめた者も擧げて、其一斑を窺ふに足らう。
▲氏は又開きたる敬神家であつて、賑入帳宮への奉齋を怠らず、故に別段宗教として信する處はないが、氏が領めたる信用の原因も一つは此敬神の念に因るのである。
左れば氏の信用に伴つて其管理する平銀行も、資本は僅か十萬圓であるが、他の銀行の非難多きに反して頗る取引先の信用厚く預金高の如きも常に資本額の數倍に上ると云ふ。
▲氏年齒四十に垂んとして未だ家を興ぐべ



山崎與三郎氏

はる、のである。
▲氏が遊歴散置問題に賛成した動機は何れに有らう、其は強め稱揚し得られぬ限りでもないが、兎に角之を以て平町の繁榮策と考へられたまへ、此機に乗じ私利を營むる、が如き野心のないとは勿論であるが其自己の所有地を一旦遊歴の敷地として賣約し、が北郷の反對親族の異見に省みて斷然契約を解除した爲め、確定敷地の他に變更された一事に徴しても明白である。
▲吾人は敢て氏の名譽の爲めに寄語す、若し氏が誠實に平町の繁榮策を圖るならば他に幾らも漸進的適宜の方法あらん、何を苦んでか氏の熱心なる育英事業と絶對に相容れざる、此非人道の舉に與するの要あらんや、願はくは更に人道の爲めに自省せよと

若き人に與ふ
尾崎雄雄氏談
左様な私親の處に依れば、今の人は、善悪邪正の觀念が餘りに無いと思ふ、甚だしきに至つては成敗の跡を見られぬを善とし正しとされるを惡とし邪と解する者へある、これは困る、善悪邪正の觀念がモソト強くなつては遂に自らを亡ぼすに至る延いて國を危ふするに至るのです、元來眞似と云ふことは必ず善い所を眞似す惡い所を眞似るもので、今日アメリカ流の處世法を眞似るの如き、金を獲るには手段を擇ばぬと云ふ傾向がある、然しアメリカ共和國

き子孫がなかつた、ソコで這は我體力法則の然らしむる處に相違なし、其以來毎朝つごめて冷水擦顔を履行して、只管運動を取るとに注意した處、不思議にも遂に一女兒を得たのである、今の令女與三郎(五)は即ち其れであるが、氏は是れ全く冷水擦顔を賜と信じて居る、らしい。
▲斯く光明面のみを觀察すれば、一點非難の餘地はないが、下世話に所謂新らしい煙も明ければ埃りの出る道理で、強て白壁の微瑕を數ふれば、氏の性格が單に濃厚篤實と云ふだけで餘り主張のないとあらう、今回の遊歴問題に對する氏の態度の如きも無遠慮に云へば此點が累ひするやうに思

の建國の眞意義に至つてはソナナ湖つべらなものではない、黄金主義即ちアメリカ主義ではない、金以外に最少し尊い正道の觀念が共存して初めて今日の米國を造りあげたのです、吾人如く若し米國が金權主義で即ち善悪邪正の觀念が無かつたら、米國は遂の昔に潰れて居る、若し又金以外に何物をも見ぬならば、其國は必ず内亂が起ります、大體米國を誤解して居る例はカーチスギーの金を溜めた處計りを眞似て、其集積した金をよく公共事業に何處圓となく捲つて手際を見れば、即ち短所ばかりを擧げて長所を捨てた見方である、ルーズベルト氏が若し黄金主義の人であるならば、到底大統領にはなれなかつたこと、思ふ、今では氏以上の方が澤山あるのですから、處で氏が大統領になつたのは、何か強い動機が正し世を服せしむる力があつたからで、即ち正しい或ものが備はつて居る、其威力で斯く現位に昇り得たこと、解する、ブライアンと云ふ人は單に一辨士である、權勢や金や位置で大統領候補になれる者ならば、ブライアンの如きは三文の價値も無いので、然るに斯る人が多衆を擧げて候補に推されるのは、其人には人格の正し、所があるからで、金や位置では買へぬ者があ

るからで、羅馬は黄金主義になつて國が亡びました、日本人が米國流を眞似ると揚言するも、考へれば飛んだ滑稽です、總じて眞似は自分と同じ程度の人を眞似したがる者で、字を習ふ爲め古法帖を撰擇するにも根柢の卑い人は必ず俗な手本を擇ぶし、人格の高い人は必ず奮勁古雅な手本を擇びます、處世の方法に於ても亦然りで、英國へ行つた人が英國人は冷傲無情であるを眞似しても、夫れはカーチスギーの金を溜めると云ふ一面計りを見たと同じで、自ら其人の冷傲無情なるを表した者です、一體有形のもの、短所長所を見ることは至極容易で、

維新當時に下の關で鐵砲と日本刀で戦つて見て、日本刀よりも鐵砲の強いことは日本人も悟つた、所が無形の人間の人格、品性、心意氣と云つた様なものは、一寸判別が付き兼ねる、殊に商人などはこの判別の力が無い様に思ひます、第一商人は非常に世間を誤解して居る商人自身は自分一流の軍容を無上のものとして居るが、世間は商人よりは少し進歩して居る、明治初年には妙な氣風が流行して、人々は法律以外に善悪邪正の標準は無いものとし、法律が禁ずる事は惡で、法律の罰しない事は善善の様に思つて居た、處で今日では左様な迂遠な間違つた考は取除けられて、法律の如きは最下等の制裁で、法律以外の制裁を重する様に考へて居る、所が商人は未だこの明治初年の考で總てを違つて居る、頭が古いのです、併し其様な違り口では到底今日金持ちはなれぬ、明治初年は亂世である、今日金持ちはない、既に時代が違ひます、今日金持ちはならぬと思はゞ、正道に世間が得心する様に事業をしなくては成功は覺束ない、この事は直ぐ判る、事實となつて現はれて來ます、
最う一言申します、今の青年にはソナナ馬鹿者はもうないと思ひますが、時によること維新當時のドサクサ紛れに、盜賊的行為で地位を得、金を溜めた人を手本として、其様な人になりたといふ日夜企圖する様な、時代後れの考を抱く人が無いとも云へぬ、亂世には僥倖と云ふ除例があつて、盜賊でも僥倖の爲め金持ちになつたこともあるがこの夢を何時迄でも見るに至つては、實に至愚の極です、今日は時代が違ひます。
◎英國商人の格言『左手に富を握らんと欲せば右手に徳と名譽とを握り居ざる可らず』

我國過去の經濟界を論じて警城の企業に及ぶ

在京 白雲 雲 峯

經濟學説に曰く、經濟界は期を定めて盛衰あり其期限は七年乃至九年に一期とす...

通する開門の一方を扼し、豊富なる炭産地を有して將來に於ける商工業地として囑望するに足れり、遂に之を握りて...

石城産科婦學校 是去五月三日認可となり、設立者は、藤野千代子にして同校主は永く地方産業を發展し來りし爲め...

石城育英會 設立せられんとす育英會とは石城地方の苦學生の爲めに學費を貸與して高等の學業を修めしめ、社會有用の人物を養成する仕組なるが、其組織方法は...

磐城工業案内

磐城硝子製造株式會社 資本金十萬圓にして、前身松崎硝子工場を變更...

藤島鐵工場 平町字南町に火災後移轉し、業務大に發展して諸般の鐵業機械...

小野硝子商店 是處製造に於ては創業尤も古く店主小野龜吉氏が去明治廿二年...

磐城の名山、關井嶽に龍燈現出の傳説を...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

從來龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

關井嶽の龍燈に關する傳説は牽強附會のもの甚だ多くして、真正の事實と認むべき點少き...

府縣會議員選舉期日

本年舉行せらるる、府縣會議員の改選は、島根佐賀二縣を除く外其確定せる選舉期日左の如し

九月廿二日 埼玉、栃木、福岡、▲廿四日、千葉、静岡、巖手、▲廿五日、東京、京都、大阪、神奈川、兵庫、長崎、奈良、新潟、群馬、茨城、愛知、岐阜、富山、石川、福井、▲廿七日、愛媛、大分、宮崎、鹿兒島、▲廿八日、徳島、▲三十日、和歌山、▲十月一日、徳島、▲五日、山口、高知、熊本、▲九日、三重、山梨、▲廿一日、鳥取、▲廿二日、福井、▲廿四日、石川、▲廿五日、青森、山形、秋田、富山、▲廿六日、岡山

吉田商店と砂礫 平町字新川町砂礫問屋なる吉田定太郎商店は、平素砂礫米利堅粉等の卸賣をなし、近郊大に其勉強なるを評判し居る、至極確實なる商店なるが、目下砂礫相場騰貴し居るにも拘らず、東京砂礫問屋の卸相場にて販賣する由なり

夏雜吟 于飯や貧乏寺の花卯木 裏に籠る窓に卵の花くさ散 簾足冷やかにしひれけり 撫子や澁の中の女塚 薫風や我田も作り田舎寺 海見ゆる勿來の関や関古鳥 短夜の醉眼活き開きけり 行水や隣は琴をひく女 先生の講義はくどき暑さ哉 花吹川の晴をたどりけり 三昧を暑と云ふ止めり 帯揚の水色鹿の子涼しけれ 欄の雨妓女に芍薬剪りけり 風雨さらさら夏海暗し

文藝叢書選題 (七月十三日締切) ▲俳句 雲峰 水賣 (投稿注意) 用紙は郵便はがきが若くは之と同形の紙幅に限り俳句と狂句とは別々の用紙に認むる事

小 説 冤罪 病耕園生

三箇の窓に日は落ちて、サツト流す藤の
色も思ふにうすれて、次第に迫る黄昏の
空には、夕氣車の煙がさまよふて居る、今
しも停車場を中學校下に向けて、足早
に行き、紺色の羽織にメリンスの兵衛帯を
つけた青年、その後から

「もし中島さんやありませぬか……」突
然にこう呼ばれたのだ、或は僕かしらんと
フト振り返る途端、白銀町の辻に悄然とし
て居る、職工體の男がさうして近いて
「中島せん、止め申してすみませんでし
た……イヤどうも大分お尋ねなりました
とされ、言葉には何か不安の事情を含
むらしい、誰かと思へば大村かどうだ不
變動だらう」

「いや、強どころちやありません、今朝不
意に解雇されました」と太息を吐いた
「カン解雇……それやなんだな、なに
か僕に咄した事でもあるのか」
「いや中島さんは非世話になりたと思
ひまして」
「そうか、では宅に歸つて聞かう」
と、先に立って今来た通りを行くのである

るみ盤である
「あんなに落膽する事はない、僕も全
力を挙げて善後策を講じやうから」
「そうですかではどうか」と感泣に咽入ッ
た

中島は元は豊陽採炭株式會社の事務員であ
つたが、暴落する現社會の資本主は他くま
で黄金の萬能力を以て、最も同情を寄すべ
き労働者を虐げ、否棄し其肉を啖つて自己
の満足を得ん爲めに、是等幾多の労働者を、
犠牲に供じつゝあるのだ、

「そりやあなたに一日一食するも、理想を
實現するとか云ふやありませぬか」と流
石に夫を勵し健氣に
「徳、感心や、それでこそ……」
折柄、恐るゝ格子戸を開けて話頭の大村
が訪ねて来た

「どうも、標榜した彼の口から失敬極る言葉を以
て荷も労働者の救世主も云ふべきもの
が、僅々一人の人間をさへ救ふ準備もせん
で……嗚呼、實に残念でたまらん」
「そりや御尤もです、さう云へば口惜し
う御座んすは、現在面と向つてその様な言
葉をお聞きなすつては……」御座んす、あ
なた大村さんが見えましたら、母子二人
引取る事にしよう
「徳そりや到底經濟が許すまい」
「そりやあなたに一日一食するも、理想を
實現するとか云ふやありませぬか」と流
石に夫を勵し健氣に
「徳、感心や、それでこそ……」
折柄、恐るゝ格子戸を開けて話頭の大村
が訪ねて来た

丁度から一月経つたか、ぬ中に、賃銀値
上げ!!!、問題が噴き出た、豊陽採炭株
式會社に於て、容易ならぬ秘密運動が烈
しくなつたのである、時は折悪く尾尾藤の
再新しい頃であるから、會所側でも火の
の上らぬ中に、導火線、否、首謀者を捕へ
て法律上の制裁を加へた
同時に煽動嫌疑者として〇〇警察署の刑事
巡査が我が中島五郎を引致した、(完)

「おちさんこれ御覽……」呼んだ聲に妻
の徳がしとやかに出迎へて「まあ早いこ
と……」座に着くを待ちて
「如何でした、い、鹽梅に御座いますか、
か」と問はれて心臓は益々鼓動するばかり、
良久して組んだ腕を解いて「歌目だ實に僕
は彼を買取つて居た、彼こそは泥中の蓮と
違信じて居た井上や、彼が社長たる煉瓦會
社こそ、多少異形のあるもの信じた、其
社長平素僕の事業にも盡力し、且つ彼自
身どこかして労働者の爲めには温かい同
情をよせてやうたい、自分の會社では……」

平町 横内 直温
寄 書
平商業俱樂部設立の概
時運の發達と商業界の進歩に伴ひ、智識の

家庭園藝 朝貌培養法 (一)

▲土地の辨 朝貌を植ふるには、第一土地
の肥瘠を見るべし、肥たる土は格別のこ
ろ、瘠たる土は随分こまを度々すべし、されば
地性の朝貌に合ふ含ぬとあり、東京にて言
は下谷、淺草を上とす、本所これに次ぐ、
荒木田土はしりり過る故このま、山の手
の土は肥を過て草生さかんに、葉ふどり過
ぎて花少く、色もさへぬものなり、草生
よげれば花咲こと遅く、實のりがたし、市
中又は焼土にて地性あしくば、芥の流込あ
る掘の揚土をよく、乾して肥をすべし、
掘土なくばとみ溜りの下の腐れ土をふるひて
用ゆ、山の手の土或は黒ぼこの肥をたるに
は、河砂を三ヶ一割てよし、又河砂計りへ
少し土をまぜて植ることもあり、班入もの
にはよけれども、其外は或やせて葉づやな
く賞難うすし

▲土の法 土の拵へやうは朝貌を植えん
と思ふ場所を、あらかじめうなひて、積置
寒中にこれを澤山かけ、上へむしろの類を
まぜ置き、來春に至り水の解初に比に、幾
度も切返し簡にて細にふるひ、土のじまら
ぬやうにしてうゆるなり

▲種下の法 並造り方 種は三月春分の比よ
り、五月夏至の比迄何日にても勝手につま
べし、就中三月穀雨の節を宜しとす、た
とへ世間より早く蒔たり共、時節來らざ
れば花咲す、若十日も早く花を咲せんと
思はば、二月彼岸の比に種を下し、少し芽
ぐみたらば毎夜霜除をなし、随分寒にまけ
ぬ様に仕立、中葉二三枚も出たらば根を掘
り植かゆる、左すれば花は早く咲どもい
け咲いてははしからず、何れ八十八夜前
は蒔いたみ易き故、大切の種はなるたけ遅
く蒔べし、四月中旬に蒔ば早蒔し、地へ蒔
ば土龍又根切虫の愁あり、大切の種は鉢へ
蒔がよし、鉢の深さ五寸位は四五粒蒔を限
とす、扱種は芽の方を下にして伏すべし、
仰向て蒔けば地の上へ根出で、大方は腐る
ものなり、同種にても生に運速あり、た
とへば五粒蒔て五七日にて一根本を生じ、夫よ
り二三十日も過て、追々生ずることあり、
生ぬとて播かへすべからず、花葉繁りて生
ずるものは生る事猶更ををし、代を造るに
は土を能くふるひ、強一枚位に高サ五寸程
に造るべし、一トいろまきの時は格別のこ
と、色敷あまた蒔ばそれへ花銘の札を
さしてしるしとし、竹にても木にても動ぬ
やうに仕切をすべし、代へはうつすりこ
ををかけ、四五日置て種を下し、上へ厚サ
二三分位に土をふるひかけるがよし、種は
随分まばらに蒔べし、蒔たる夜と翌日雨の
降るを思ゆへ、天候を見定めて蒔べし、日
和ぬと土乾かば如儀にて水をかける、水す
ぐれば種くされ水かわれば芽されぬぞし

醫學得業士村上則祐

合同ノ上院務ヲ擴張シ汎ク外來及ヒ入院患者ノ需ニ應ス

磐城平南町
松村醫院
院主 松村高知

砂糖問屋 和洋粉問屋

大日本製糖株式會社特約販賣店



平町新川町
吉田屋定太郎

赤煉瓦

品質優等多
數ノ製造力
新太郎改名
佐々木忠右衛門

磐城國平町字紺屋町角

論ヨリ證據
現品御一覽
赤煉瓦第二工場

屋根瓦

ノ上御使用
アランコチ
瓦工場
希望仕候

同 平窪村鷺内

海産乾鹽魚

雜穀類品々

荒物乾物商

磐城平町四丁目

菅野屋源三郎

電話(スケ)(ス)



煙草元賣捌所
釜屋堀過燐酸肥料
販賣

磐城平町三丁目
中野支店

太
物
卸
中野支店

煙草元賣捌所
釜屋堀過燐酸肥料
石城郡一手販賣

中野本店
磐城平町新川町

北郷内外科醫院

平町停車場前

頭調進所

川町
阪善作

商號 吉原屋



洋 燈 硝 子 器 問 屋

磬 城 平 町 新 川 町

松 崎 商 店

人 物 專 門

青 木 眞 館

磬 城 平 町 南 町

夏 衣

新 珍 柄

取 揃 申 候

龜 田 屋

洋 吳 服 店

平 三 町 目

平 運 送 會 社

衣 夏 行 流 柄 珍 新 辦

正 札 引 な し

吳 服 太 物
洋 織 物 類
御 祝 儀 物 一 式
シ ャ ツ、イ ン パ ノ ス
東 コ ー ト、洋 傘

會 館 屋 吳 服 店

町 屋 紺 町 平

山 海 味 大 和 丸

全物商店
 坂田商店
 城平
 町目

毎日午前七時ヨリ判断
 易 諸 占 斷
 智 德 館
 鈴木 兼 政
 地理家相撰擇
 遠方へ通信ス
 生年月日記入

二 丁 目

呼

弊 城 平

荒物 乾物 砂糖 銘茶 疊表 紙類 鼻緒 麻類

大 一 屋
 根 本 仙 三 郎

雜貨卸商
 松崎長太郎
 平城 藝
 新川町
 洋器磁陶

種水油製造

舶來諸石油
 炭坑内燈油
 諸器械用油

關内市重
 (清水屋)

弊城平町二丁目

日本石油株式會社
 寶田石油株式會社

特約一手販賣店

印刻

朱青黑紫印肉販賣
 平町一丁目甘番地
 清仙堂

綿引秀親

夕

薄 利 大 勉 強

荒物砂糖 疊表紙類 麻類網糸 乾物銘茶 船道具類 洋傘帽子 卸小賣

弊 城 平 町 四 丁 目

阿 部 唯 次 郎

(伊勢屋) 號商 (電器セキ)

T
磐城硝子製造株式會社

磐城平町新川町

眼病者及小兒、學校生徒及壯丁渡航者ノ
 診察及眼部健康診断及貧民トラホーム患
 者施療及眼病者職業ノ選擇等凡テ眼部衛
 生ニ就テ一切ノ相談ニ應ス

診療時間 自午前九時
 午後五時迄
 眼科大學選科卒業
賀澤忠治

○トラホーム症ハ決シテ不治ノ病ニアラ
 ズ、早期正確ノ診察ヲ怠リ適當ノ所從ヲ
 加ヘズシテ重症不治ニ陥ル、如斯シテト
 ラホームハ次第ニ蔓延ス、之レニ患者
 不注意ノミナラズ醫師モ亦一分ノ責ナキ
 克ハズ、己ニ内務省令出デ、世人マスマ
 ス其恐ルベキヲ知ル、患者ノ幸福ト豫防
 要旨ハ早期正確ノ診察ヲ勵行スルニアリ
 矣、
 石城郡平町字南町
賀澤眼科院

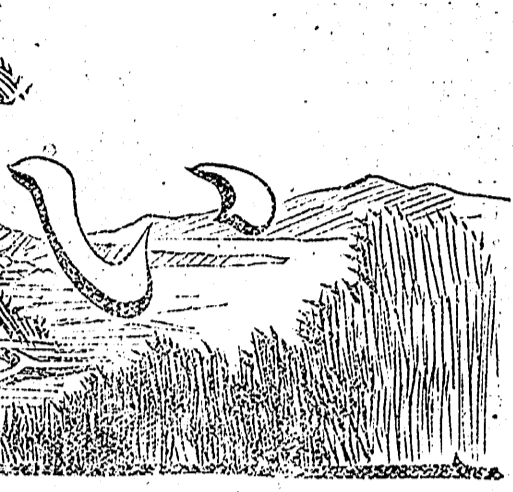
外科婦人科
 内科小兒科

宅診 午前
 往診 午後

外科手術 毎日施行
 磐城平町

鈴木醫院

病室ノ設アリ入院隨意



呵此大汚辱!!!

凡そ公認設置の不可なるは、之を人道の大
本より論ずるも、國家の體面より論ずるも、
將た社會風教の上より論ずるも、公衆衛生の
上より論ずるも、業に既に充分解決された
る問題にして、今に於て故らに筆舌を勞す
るの要なしと雖も、不幸にして我々市民の
意志を代表する明會は、五月十六日を以て

新聞雑誌特約販賣教候ニ付御注文被下度候

東京市京橋區南八丁堀一丁目二十六番地

平陽社

振替貯金口座七四壹

定價一部 金五圓
外二郵税 五圓
原稿料 發行日 寄日 郵券
五號活字十九字詰
發行 金拾圓

編輯人 高木朝重
印刷人 高城寛雄

福島縣石城郡平町
平陽社

夏 珍 新
衣 柄 荷
着



最新流行柄柄種々可採
京染物款好々應々油迄在

平号四丁目角

力可有屋呉服店

正 札

呉服太物洋物
足袋仕立物
仕立用品
履物雜貨部

磐城平町三町目

三三井呉服店

磐城平町三町目

三井支店

放擲せば遂に救ふ能はざるの悲況に陥る
や明かなり果して然らば大にしては國家
の元氣生産力を減耗し小にしては一家の
不和衰退を來すや必然なれば片時たりと
も決して忽語に付すべからざる極めて重
要事と云はざるを得ず今茲に衛生上禍害
の事實を擧ぐれば客年一月より十一月に
至る十一月間醫者の治療を受けたる花
柳病及び瘰癧患者は實に一千二百六十一
人の多きあり之を總人口に比較するに
は十一人八分に對し一人の割合に該當す
尙ほ進んで賣藥に依る患者を調査せば蓋
し其五割以上の數を得る蓋し難からざる
べし然らば此最も恐るべき毒病は如何に

本町に於て客年來企劃に係る道路の開修
公園の建設女學校縣立等皆之れ不生産的
の事業にして獨り水道布設の衛生産に類
するあるのみ、尙町發展上近き將來に於
て施設を要する寺院の移轉新市街の設置
溝渠の改良等又不生産的事業に屬せり如
何に時運の止むべからざる事なりと雖も
町民の負擔力も亦大に顧みる所勿るべか
らず故に一面には生産的事業を施設し民
力補充の策を講ずるの極に緊要事たるを
認む依て此土地を買収し町有とし而して
該地に於て遊廓を建設し希望者に貸貸せ
ば多大なる收得あるや明らかなるを以て
欲す、